畑雑草の幼植物
(6)夏生一年生イネ科

(独)農業・食品産業技術総合研究機構　中央農業総合研究センター　浅井元朗

日本全国に畑地で代表的な夏生一年生イネ科草種として，ここではメヒシバ*Digitaria ciliaris*，オヒシバ*Eleusine indica*，イヌビエ*Echinochloa crus-galli* var. *crus-galli*，アキノエノコログサ*Setaria faberi*の4種を取り上げる。

メヒシバはおそらく日本の夏の畑で最も広く生育する草種である。オヒシバは本州以南に分布し，西日本では畑地にも生えるが，東日本では耕される土地に入りこむことは少ない。暖かい地方では株基部で越冬し，ほぼ周年生育するが，畑地では通常，一年生としてふるまう。水田では“ノビエ”と総称される野生ヒエ類のうち，畑地に生えるのはほぼイヌビエである。人里に生えるエノコログサ類のうち，アキノエノコログサは耕地や荒れ地に多く，畑地の害草となりやすい。エノコログサ*S. viridis*は主に路傍など裸地に生え，キンエノコロ*S. glauca*は畦畔や芝生など草地に多い。

メヒシバの第1葉は幅広の笹の葉型で，表面，縁に白毛が密生する（写真－1)。この特徴だけで，畑地であれば多くの場合，イネ科幼植物をメヒシバと識別できる。オヒシバ，イヌビエ，アキノエノコログサの葉身は無毛である。オヒシバの第1葉は広線形で，葉身は地面に対して平行である（写真－2)。これに対し，イヌビエ，アキノエノコログサの幼葉は垂直方向に伸び，先が曲がる。イヌビエの葉身は左右に開き，先端が尖る（写真－3)。アキノエノコログサの第1葉は長だ円形で先が尖る（写真－4)。

メヒシバの幼植物は葉身裏面，葉鞘にも白毛が密生する（写真－5)。オヒシバの新葉は2つ折れで抽出し，葉身はほぼまっすぐに伸びる（写真－6)。この点で他の3種と識別できる。また，葉身は平行脈が目立つ。イヌビエは全体が無毛で，葉鞘は扁平となり，基部はしばしば赤みを帯びる（写真－7)。アキノエノコログサは葉の質が硬く，平行脈が密である（写真－8)。また，イヌビエに比べ，葉身が幅広い。写真－9は分蘖初期のメヒシバ（左）とオヒシバ（右)。メヒシバの葉身は柔らかで縁が波打つ。両種とも，裸地では地面に這うように分蘖を増やす。イヌビエの桿は扁平で直立し，左右に分蘖を広げ，葉身の先は垂れる（写真－10)。アキノエノコログサの桿は円形で，葉身の先は鋭く尖る（写真－11)。葉身の縁は著しくざらつく。メヒシバの成植物では葉身の毛は少なくなるが，基部に長い毛があり，葉舌は白い膜質である（写真－12)。オヒシバの成葉は基部にまばらに長い毛がある。葉舌はメヒシバ同様に膜質だが，短く目立たない（写真－13)。イヌビエは全体無毛で，葉舌はなく，葉身と葉鞘の境は白い（写真－14)。アキノエノコログサは葉鞘の縁に長毛が並び，葉舌は短い毛が並ぶ（写真－15)。

＊夏畑作の除草剤適用性試験では，ほとんどの場合メヒシバとイヌビエの2種に効果が確認されれば，使用基準の対象草種を「イネ科」と判定している。

写真－1　メヒシバの第1葉。

写真－2　オヒシバの第1葉。

写真－3　イヌビエ1葉期。

写真－4　アキノエノコログサ1葉期。

写真－5　メヒシバ3葉期。

写真－6　オヒシバ3葉期。

写真－7　イヌビエ3葉期。

写真ー8　アキノエノコログサ4葉期。

写真ー9　メヒシバ（左）とオヒシバ（右）の幼植物。

写真ー10　分蘖初期のイヌビエ。

写真ー12　メヒシバ成葉の葉節部と葉舌。

写真ー13　オヒシバ成葉の葉節部。

写真ー11　分蘖初期のアキノエノコログサ。

写真ー14　イヌビエ成葉の葉節部。

写真ー15　アキノエノコログサ成葉の葉節部。